

クラス番号	915	ゼミタイプ	多職種連携型
		担当教員名	浅原 千里
テーマ	「障害」のある人の生活を支援するソーシャルワーク		

ゼミナール概要

○目的

このゼミの目的は、「障害」のある人の生活を支援するソーシャルワークについて学ぶことです。

障害という言葉は「 」で括ったのには理由があります。福祉専門職は「障害」について、医学的に診断される“からだやこころの機能障害”だけでなく、“普段のくらしにおける生活しづらさ”や、“地域・社会との関係における障壁の存在”も含めてみていきます。“からだやこころの機能障害”は病気、事故、老化などが原因で誰もが抱える可能性があります。“からだやこころの機能障害”がある人が安心して暮らせる支援は、大切な社会保障です。「障害」の意味をよく考え、学んでいきたいと考えています。

また、多職種連携に関しては、次の問題意識をもって学んでいきたいと思えます。

- ① 「障害」のある人の生活支援とはどのようなとりくみか？
- ② ①のとりくみには、どのような人々が、どのような形でかかわっているか？
- ③ 「連携」とは、具体的に何をすることなのか？

○内容・方法

ゼミでは、美浜町で「障害」のある人の生活支援を展開している社会福祉法人みはま福祉会のとりくみにかかわらせていただく予定です。みはま福祉会は、知的障害、自閉スペクトラム症などの発達障害、肢体障害などの機能障害を重複して抱える方々に利用されています。

みはま福祉会では具体的にどのようなとりくみがおこなわれているのか？ また、とりくみにはどのような人々がかかわっているのか？ そんな問題意識のもと、まずはみはま福祉会にかかわる人々や地域住民が参画する「あぜりあ祭り」（例年4月29日；昭和の日に開催）に、ボランティアとして参加します。さらに、利用者と日中活動を共にしてかかわる体験や、みはま福祉会とかかわりのある人々から話をお聞きする体験学習などを通して、「障害」のある人の生活しづらさとはどのようなものか、地域・社会との関係ではどんな障壁が存在するのかを考えます。

このような体験学習とあわせて、文献や資料を読みながら、ソーシャルワークとはなにか、「障害」のある人の生活を支援するソーシャルワークとはどのような実践なのか、どんなことが課題となっているのか、ゼミのみんなで話し合いたいと思えます。使用する文献はゼミのなかで提示します。

ゼミの時間はディスカッションやグループワークが中心なので、予習（宿題）を課します。さまざまな方々と関わりますが、その準備やまとめもゼミメンバー同士「連携」して取り組みます。

担当教員からのメッセージ



私は大学に勤める前は、福祉施設の職員として、知的障害と自閉スペクトラム症を重複している人たちの生活を支援する仕事をしていました。日常生活の介助や見守りを必要とする方、強度行動障害と呼ばれる状態の方が多かったため、ケアワークをたくさんしました。そのなかで、利用者さんの機能障害、生活のしづらさ、家族のしんどさを具体的に知るようになりました。利用者さんが地域のお店を利用したり、路線バスを使って移動したり、企業などで働くことができるように理解と協力を求めるとりくみもしました。地域・社会に大きな障壁の存在を思い知らされることもありました。現在の社会は少しずつでもノーマライゼーションに向かっていると感じますが、何かの拍子に後退してしまいかねない脆弱な一面ものぞかせています。まずは「障害」のある人のことを知り、その人が地域で暮らすために必要な橋渡しをどのようにしたらよいか、一緒に考えてみませんか。皆さんのエントリーをお待ちしています。